

平成 18 年 12 月 6 日

1号機における誤警報発生の調査結果について

東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

定格熱出力一定運転中の1号機において、平成18年10月13日午前9時36分、平均出力領域モニタ（APRM）*¹の定例点検を行っていたところ、中央制御室において、「B系原子炉スクラム*²」、「中性子束高トリップ*³」および「APRM B系高高／機器動作不能*⁴」の警報が発生いたしました。

これは、当該点検の復旧作業中に手順を誤って警報を発生させたもので、同警報については、速やかに解除いたしました。なお、制御棒の動作はなく、原子炉の運転への影響はありませんでした。また、本事象による外部への放射能の影響はありませんでした。

[\(10月13日お知らせ済み\)](#)

調査の結果、以下のことがわかりました。

- ・APRMの点検作業終了後の復旧時には、APRM盤にある作業用切替スイッチ位置を切り替えた後、バイパス*⁵を復旧すべきだったが、作業指揮者は、当該スイッチの位置を作業員に確認しないままバイパスの復旧を当直員に依頼した。
- ・当直員も、当該スイッチが切り替えられたことを作業指揮者に再確認すべきところ、それを行なわないままバイパスを復旧した。

対策として、APRM等に関連する作業の際には、作業指揮者はチェックリストを用いて作業ステップの進捗管理を行うこととし、これを作業要領書へ反映いたします。また、作業用切替スイッチ用の操作札を発行するとともに、当直員は、当該操作札が作業員より返却されてから、バイパスを復旧することといたします。

全当直員および作業関係者に対し、今回の事例ならびに作業に係る操作札の運用について周知・徹底いたします。

以 上

* 1 : 平均出力領域モニタ（APRM）

原子炉内の中性子量を計測する装置の一つで、原子炉の通常運転中に原子炉出力状態を測定するための装置。

* 2 : B系原子炉スクラム

原子炉を緊急停止するための信号が片系だけ発生した状態であり、制御棒は動作しない。スクラム信号はA・B両系に発生することで制御棒を全挿入し、原子炉を緊急停止する。

* 3 : 中性子束高トリップ

原子炉内の中性子量が多くなった場合に示す警報。

* 4 : APRM B系高高/機器動作不能

原子炉内の中性子量が多くなった場合、または、機器の動作不能になった場合に示す警報。

* 5 : バイパス

モニタを1チャンネルずつ点検校正するために、制御回路から切り離す機能。